
リンカネーション

おろろー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リンカネーション

【コード】

N0114K

【作者名】

おろろー

【あらすじ】

回る廻る周る。

生まれ変わる事は果たして幸福なのか。

“人が生きる中で、初めて芽生える感情とは絶望なんだ”

いつだったか、友人がそんな事を言っていた。

“生まれたその瞬間に赤子は産声をあげるだろ？ それは現実の冷たさに絶望してあげる悲鳴なんだ”

そう言っていた友人は先月死んでしまった。

事故死だったらしいが、終わってしまった事だからなんとも言えない。

泣くほど密な関係でもなく、無関心になれるほど薄い付き合いでもない。

なんとも奇妙な友人だった。

今こそ俺はその友人に問いかけたい。

お前は何故、そんな風に思っただんだ？

お前は何故、産声を指して“悲鳴”と言っただんだ？

何故なんだ？

俺と同じような経験をしたから、そう言えたのか？

「あぎゃーーっ」

私は悲鳴を上げる。

死んだ事に対する悲鳴を、生まれた事に対する悲鳴を。

なるほど、絶望だ。

死ぬ瞬間を赤子が覚えていると言うのなら、それは絶望だ。

あの焼けるような外気、沈んでいく意識、魂を引きちぎられるような激痛。

それを赤子が覚えていると言うのなら、絶望するしかない。

私は死んで、生まれた。

ファンタジーのような世界に。

科学の利器もなく、整理された道路もない。

獣は大地を我が物顔で闊歩し、気まぐれに村を襲って人を食い散らかしていく。

生まれて狂ってしまったのかと思うような、非現実的な世界。いつそ狂ってしまいたかったと思うような、弱肉強食の世界。

13で傭兵に。

19で王国騎士に。

24で騎士將軍に。

30の頃、任務に赴き竜に食われて、私は死んだ。精一杯生きたくもりだったが、ここまでらしい。

まあ、しょうがない。

沢山殺してきたんだ、殺されもするか……。

死ぬ瞬間の激痛も、沈んでいく感覚も慣れはしない。
しかし、少しの安堵を感じる、これで終われるのか、と。

“知ってるかい？ リインカネーションは続くんだ、なんせ巡る機
関だからね。一種の永遠機構さ”

誰の声だ。

部下の騎士か？

それとも魔術師の念話か？

“組み込まれたらそれでお仕舞い。絶望しても狂っても逃れられな
い、永遠に囚われる。あははは、狂ってしまいなよ。そうすれば楽
だ。僕はそうしてきたよ。人殺しも何もかも狂ってしまえば快樂に
なる”

いや、これは……

“クルクルクルクル狂ってしまおう。そうすれば君は苦しまなくて
もいいんだ”

ああ、懐かしい声だ。

名前も覚えていない、友人の声。

“さあ、君が狂うまで終わらないよ”

私は悲鳴を上げる。

何度も何度も、狂えぬ理性を恨みながら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0114k/>

リンカネーション

2010年10月11日13時11分発行